

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日々の生活の中で理念を共有し実践につなげている。毎朝理念の斉唱をしている。	「やさしいまなざし、手のぬくもり、心のやすらぎ、地域家族との支え合い」という理念をリビングに掲げ、来訪者にわかりやすくしている。毎日の申し送り時に唱和したり、全職員参加の毎月のケア会議でも確認をしている。理念にそぐわない言動等が見られた場合には施設長から助言をし、正しい方向へと導いている。ベテランの職員が多く、理念を更に具体化し日々の業務に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会の行事に参加したり散歩時に挨拶を交わしたりして交流をしている。また、近隣の方に野菜などを頂いたりしている。	ホームは自治会に加入し回覧板も回ってくるので地域の情報を得ることができている。地域の老人会が主催し1年に2~3回開催される高齢者を対象としたふれあいサロンにも利用者が参加している。傾聴ボランティアも月2回、第2・第4木曜日に来訪しており、クリスマス会などに手話ダンスのボランティアも訪れ利用者と顔なじみとなっている。高校生のヘルパー2級実習の受け入れも継続的にしており、最近では男子生徒が多くなってきているという。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	思いはあるが現実的には貢献できていない		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に行い、行政、地域の方に報告情報交換はしている。交番、消防などにも協力参加していただけるよう働きかけている。	奇数月の第4水曜日13時30分から、家族代表、ボランティア、自治会長、民生委員、市職員、地域包括支援センター職員などをメンバーに開催している。ゲストとして警察関係者の出席もある。会議では入居状況やホームの運営状況を報告し、参加者と意見交換している。「運営推進会議の経緯一覧表」があり、会議内容が時系列的に記録されており、地域からの協力を得るための有意義な会議となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	折にふれ連絡を取り協力関係を築いている。	利用者の欠員が生じた場合には地域包括支援センターにも紹介の依頼などを行っている。介護認定の更新の際には家族の了承の下、調査員がホームに訪れ、ホームからも情報を提供している。介護保険の更新申請代行のため市窓口に出向くこともある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしていない	日中、玄関は開錠されており、職員は利用者の行動を制限する具体的な行為やそれによる弊害を認識している。転倒等を防ぐためにセンサーマットなどを使用する場面があるが、家族にも承諾を得て使用し、できるだけ早期にはずすようにしている。現在外出傾向の利用者はいないが、そのような時には職員が同行しホーム近くを散歩している。マニュアルもあり、会議などで身体拘束をしないケアについて施設長からの話しもある。	

認知症高齢者グループホーム梨ノ木荘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	注意観察し利用者の身体チェックし確認している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	近年研修会に参加する機会もなく、また、現実的にその場に関わった事がない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に契約書の読み合わせをし、合意の下に重要事項の説明を書面を持って行い。理解納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の場に家族の参加もあり、その場で意見などを頂いたり、来荘時に話を伺い運営に反映させるよう努めている。	殆どの利用者は自分の意見や思いを表わすことができる。職員も分かりやすい言葉掛けで意見や要望を聴くようにしている。家族の来訪は週1回から月1回と様々であるが、遠方にいる方も1ヶ月に1回の定期受診の付き添い時に来訪しており職員とお茶を飲みながら本人の様子を聞いたり要望等も伝えている。利用者や家族からの意見・要望などは記録し、全職員が周知できるようにしており、検討が必要なものについては会議などで話し合い運営やサービスに活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議を定期的に設け意見を聞き運営に反映させるよう努めている	毎月のスタッフ会議には全職員が出席し、運営やケアに関することなど何でも相談し決めている。施設長、管理者もケアに携わっているため日頃から職員とは気軽に話したり意見や気づきを聞くことができる。経験豊かな職員が多く、自由に意見が出せ、得られた意見や提案はホームの運営・サービスに反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	社労士の意見をきき出来るだけ整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	種々の研修に積極的に参加する事を勧め機会を設けている。また、職場内においても折にふれ講習している。		

認知症高齢者グループホーム梨ノ木荘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会の研修や会議などに積極的に参加しているが、他施設の訪問などはしていない。今後はサービスの質の向上のため取り組みたい。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	一対一の対話、また傾聴し本人が不安を感じる事の無いよう安心して過していただける様支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所申し込みの段階から充分家族の話に耳を傾け、心配事、不安を共感し安心して預けていただける様意識をもって努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の希望、家族の希望を聞き双方にとって一番良いと思われる方法を考えていける様努力している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	敬意の念を持ち接し、信頼関係を築ける様努力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常日頃家族との連絡を蜜に取り合い共に支え合う関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や知り合い、友人の訪問を門戸を開き歓迎しているが、なかなか思うような面会者はない。これからも努力していく。	家族と共に顔馴染みの美容院に出かけパーマや毛染めなどをする利用者もいる。家族の送迎でお墓参り・法事のために外出する方もおり、家族の協力を頂きながら馴染みの関係や慣わしを継続している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の生活のなかでお互いを理解し助け合っているよう声かけしオリエンテーションなどでも働きかけている。		

認知症高齢者グループホーム梨ノ木荘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	定期的に連絡をしたり、他施設に移った方の訪問などしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で本人の希望、想いを聞き意向把握に充分努めている。	自分の思いを伝えられる利用者には具体的に確認しており、利用者から希望ややりたいこと、ホームに来て良かったことなどを出していただき文章化しリビングに掲示している。また、利用者一人ひとりの毎月の目標を聞きだしこちらも紙に書き、ボードに張り出している。意思表示が難しい利用者には判断しやすい声掛けを行い仕草等で受け止めている。利用前の担当ケアマネージャーや家族からの情報に加えホームでの日頃の様子などから本人の意向を把握しそれに沿えるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	当荘見学来荘時よりその方の生活歴、意向など情報の聞き取りを行い暮らしについての経過把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	声かけをし今日は何をしたいのか聞いたりして支援している。また職員の毎日の申し送りなどで現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	必要に応じてケア会議、カンファレンスを開きスタッフ間のケアの統一と本人に対する見方の一致を図りケアプランに反映させる様努力している。	月1回のスタッフ会議はケア会議を兼ねており、一人ひとりの利用者について職員全員で検討をしている。本人や家族の意向を基に職員の意見、気づきを加え、援助目標や具体的な援助内容を盛り込んだ介護計画を計画作成担当者が作成している。月ごとに評価し、遂行状況を確認しながら目標の期間に合わせ、3ヶ月単位で見直しを行っている。入院後に本人の状態が変わったり、本人・家族の要望等の変更が生じた時にも見直しを行い、現状に即したものに作り変えている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活や様子は個別のファイルがあり記入されている。申し送りを通じてケアに活かされている。		

認知症高齢者グループホーム梨ノ木荘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人一人のニーズに応えるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会のふれあいサロンへの参加や散歩など、また可能な範囲までの買い物で地域になじめるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医に日々の様子を報告し、家族の協力を得ながら適切な医療を受けられる様支援している。	かかりつけ医については本人や家族の希望に沿っている。通院や受診に関しては家族対応を基本とし、ホームの看護師も可能な限り同行するようにしている。看護師が同行できない場合には情報提供書を家族に渡し医療機関につなぐようにしている。利用者が病気や負傷し家族が都合がつかない時には家族に代わり職員が付き添うこともある。その場合の家族への連絡などは看護師を窓口とし一本化している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々特変事項は別紙に記入し職員が共有し早期に対応出来る様支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時、医療関係者と情報の交換相談に努めている。また入院時面会に行き早期退院できるよう勇気つけている。医療連携を取っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	8割の方の家族とは合意が出来ている。また入所時家族と話し合っている。	利用開始時に重度化や終末期に関してホームの出来ることを説明している。ホームでの看取り支援のケースはない。もし重度化した場合には特養などに移り住むことを前提としているので特養へ申し込みをされている利用者が多い。看護師とかかりつけ医との連携も図られており、相談内容を検討していただいたり助言もいただいている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急時の訓練は消防署の職員から年に数回受けている。看護師より急変時の対応方法は指示を受けている。		

認知症高齢者グループホーム梨ノ木荘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の職員より年に数回訓練を受けている。地域の方々にも協力を求めていこう今後も努力していく。	年3回、避難・誘導訓練を実施しており、そのうち2回は消防署員の立会いで実施し、残りの1回はホーム独自に行なっている。利用者も職員の誘導を受けながら避難訓練に参加している。非常時に備え、利用者一人ひとりの災害時用ネームプレートと防災袋が用意されている。夜勤に従事する職員で夜間を想定し、火元別にシミュレーションをし避難経路も確認している。今後の訓練には地区の人々にも参加を呼び掛けていく意向である。飲料水、食品、介護用品などの備蓄についても検討中である。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の尊厳が守られるような言葉かけなどをするよう日々心がけている。	人格の尊重やプライバシーの確保についてはスタッフ会議等で話し合いが行われている。利用者に支援が必要な時には利用者の誇りを傷つけないよう対応している。排泄や入浴支援時には自尊心に配慮し介助している。本人や家族からの要望に沿い、利用者の名前にさんを付け敬意を持って呼びかけをしている。家族以外の来訪者については面会ノートに記入していただきプライバシー保護についても留意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	レクリエーションなどでも本人の希望を聞きながら利用者本位の生活がなされるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	同上のように、希望に沿って支援出来るよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧、衣類など本人の好みで自由に出来るよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	重症化に伴いなかなか一緒にやることは難しくなっているが、片付けなどは手伝っていただいている。	全介助の方や一部介助の方もいるが自力で摂取できる方が半数以上いる。食形態もトロミを必要とする方が若干名いるがそのほかの方は常食である。利用者でお手伝いのできる方は限られてきているがモヤシのヒゲとりなどを職員と一緒にやっている。誕生日にはケーキやチラシ寿司などで職員手作りの誕生日カードで祝っている。節句などに合わせ行事食を作ったり、回転寿司などの外食についても希望を募り出掛けている。ホームには広い畑があり、ナス、キュウリ、カボチャなどが育てられており、近所の方からも野菜の差し入れがある。	

認知症高齢者グループホーム梨ノ木荘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養を充分摂れるよう提供している。水分摂取においても充分気を遣っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	その人に合った口腔ケアを毎食後行っている。時には訪問歯科治療も取り入れている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中夜間を通しその人の排泄パターンを分析し、トイレ誘導を行い失禁を減らしパットの使用量も減らせるよう努力している。	自立されている利用者は少なく、見守りと介助を必要とする方が多い。職員はプライバシーに配慮しながら、さり気なく付き添い、トイレでの排泄介助が行われている。尿意が曖昧な入居者には時間を見ながら誘導している。夜間のみポータブルトイレを使う方も数名いる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排便チェックを行い適切に対応すると共に。水分摂取、乳製品を摂るよう努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日の定めはあるが楽しんで入浴していただけるよう職員は心掛けている。また、個々に合った入浴介助に努めている。	全利用者が何らかの介助を必要としている。入浴日は週4日、時間も15時から20時と選択できるようにしており、週2回以上は入浴している。夏場は状況により入浴に加えシャワーを浴びたりすることもできる。入浴を拒む利用者は今のところいない。冬場の乾燥肌などについては保湿成分のあるクリームなどで対応することもある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	充分対応支援している。個々においても状態を見極め休息を取っていただくよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	常に充分配慮し服薬による症状の変化にも良く観察している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	張り合いを持って日々過せるよう出来る手伝いをしていただいたり、レクリエーションに参加していただいている。時には遠出をして気分転換を図っている。		

認知症高齢者グループホーム梨ノ木荘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	一人一人の外出には難しいものがあるが、散歩は毎日行ける様支援し、家族の協力を得て外出出来るよう働きかけている。行事として戸外に出掛けられる機会を設けている。	ホーム内では補助具で自立していても外出時には車椅子を使用する方が多くなってきている。天気の良い日にはホーム周辺の住宅内を散歩したり、ホームに隣接する畑に出たりしている。行事外出としてドライブがてらお花見をしたり、バラの見学、牧場へお弁当やおやつをもって出かけている。個別の希望があれば意向に沿った支援も行なっている。家族の協力でお墓参りや法事などに外出する方もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族より小遣いは預かってはいないが、近所の店に行きお金を渡し買い物をしていただいたりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をすることはあまりないが、年賀状作りの支援はしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内は明るく保ち、塗り絵工作などで季節感のある飾り付けをしている。	利用者が集うリビングの壁には利用者一人ひとりの「希望すること」、「やりたいこと」、「ホームに来て良かったこと」、「月の目標」などが掲示されており利用者の日々の糧となっている。ビデオを見ながらのラジオ体操第1と第2、足の体操、嚙下体操、小学校唱歌「ふるさと」の斉唱などを毎日の日課として継続し自主性を出せるようにしている。テーブルやソファ、テレビのあるリビングを中心にキッチン、トイレ、浴室などが集約されており生活感が感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにソファを置き、気のあった者同士が語らいのんびり出来る空間づくりの工夫に努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人や家族の意向を取り入れ工夫している。但し、重症化に伴い荷物の制限をよりなくせざるを得ない場合もある。	1階に4室、2階に5室あり、昇降用のエレベーターが設置されている。居室にはベッド、衣装ケース、椅子やテーブル、ポータブルトイレなどが持ち込まれ、押入れも広く介護用品などが収納されている。整理整頓された簡素な感じではあるが、各居室には暖房用のオイルヒーターが設置されており安全面への配慮がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内は手すりなどを設置し安全に生活出来る様配慮している。個々の身体能力に応じた対応をするよう職員も心掛けている。		